

# ソフトウェアによって新たな収益源を創出したDürkopp Adler AG

ハードウェアを扱う業界の典型的事例はそれほど多くないのですが、その1つに工業用マシンがあります。今日の世界では、ハードウェアに最も依存する業界であってもソフトウェアが必須となりつつあるのです。Dürkopp Adler社のクライアントにとって、自動化ソフトウェアは、人件費の削減、製造工程の効率化、企業収益の増加につながる新時代のツールです。

Dürkopp Adler AGは、近代縫製産業が産声を上げた19世紀のドイツに端を発する企業です。同社は現在、クライアントとなるメーカー各社に、さまざまな種類の工業用マシンやマテリアルハンドリングシステムをはじめとする、縫製技術分野の最先端ソリューションを提供しています。同社のグローバルな販売網は、11社の子会社、2社のジョイントベンチャー、80社以上の認定ディーラーなどで構成されます。

縫製産業における自動化の進展は、製造工程の透明性の低下をもたらしました。工場長は、それぞれの仕事場で行われている縫製作業をあまり細かくコントロールできていません。Dürkopp Adler社はこの課題を解決するために、クライアントが製造工程を可視化して管理できる革新的なソフトウェア「QONDAC」を開発しました。QONDACは、工場内のすべてのマシンをネットワークに接続し、それらの利用状況に関する情報をデジタルプラットフォーム上に集約します。生産チェーンの可視性が高まれば、柔軟性が向上し、生産を細かくコントロールできるため、製造工程上の品質やコスト効率を高めることができます。同社はこのソフトウェアに大きな市場価値があり、また

適切な保護テクノロジーによってのみ売上アップや知的財産の保護を担保できる、ということを認識していました。

課題となったのは、ハードウェアのみを取り扱ってきた同社に、ソフトウェアを販売・配布するためのしくみが確立されていなかったことです。

## 産業革命からデジタル革命へ

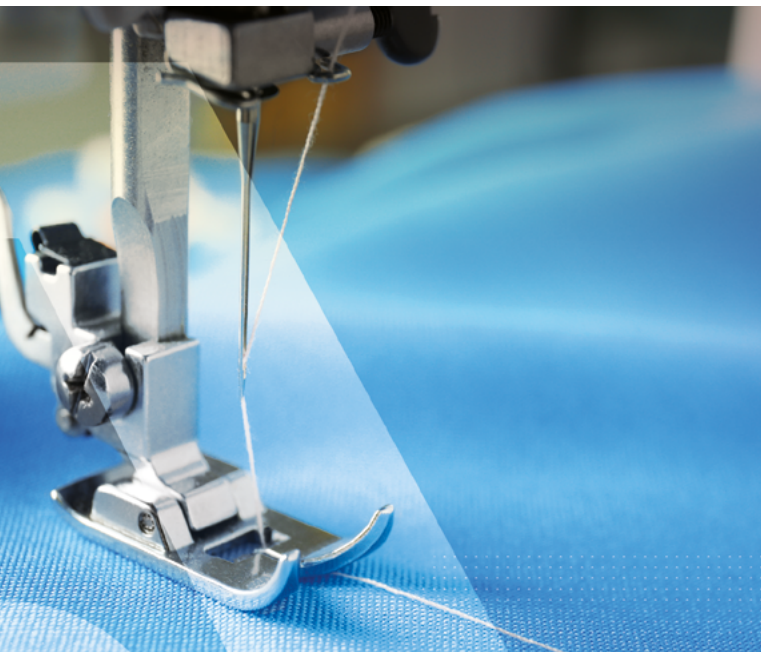
長い歴史において、Dürkopp Adler社の販売の流れは単純明快でした。インドやトルコの手縫製企業をはじめとするクライアントが工業用マシンなどの機器を購入し、配送されると、それはクライアントの所有物となります。他社がそうした機器を使用したい場合は機器を物理的に入手する必要があり、2社が同じ機器を同時に使用することは不可能です。

一方、ソフトウェアの場合は事情が異なります。ライセンスや著作権保護のしくみがなければ、容易にコピー／ダウンロードされ、複数のコンピュータや企業で無制限に使用されるおそれがあるのです。Dürkopp Adler社は、自社の価値あるソフトウェアから確実に収益を得るには、ライセンス管理システムが必要になることを理解していました。



「当社が自社製ソフトウェアをモニタリングするとともに、購入したお客様に当社の機器を常にご利用いただけるようにしたいと考えました」

– Timo Tarrach氏 (Dürkopp Adler AG, Control Technology担当Product Manager)



Dürkopp Adler社のControl Technology担当Product ManagerであるTimo Tarrach氏は次のように述べています。「当社が自社製ソフトウェアをモニタリングするとともに、購入したお客様に当社の機器を常にご利用いただけるようにしたいと考えました。ソフトウェアを保護しつつ、しっかりと収益を生み出す必要があったのです」

解決策を模索した同社が見いだしたのが、Sentinelでした。

## 業界初の企業に

Dürkopp Adler社はSentinelのライセンス管理システムを導入したことで、この業界で初のハードウェア機器とデジタル管理ソフトウェアの両方を販売する企業となりました。Tarrach氏はこう言います「著作権保護と、デジタル市場におけるリードを広げることは重要です。業界で初のデジタル管理製品を提供する企業となったことで、当社は大きな競争優位性を獲得しています」

Dürkopp Adler社には主に4つのニーズがありました。ライセンスと利用規約の生成、異なるレベルの契約を作成できる柔軟性、ライセンスのセキュリティチェック（行動履歴）、プロセス全体の自動化です。これらすべてのニーズを満たせるシステムとして、タレスのSentinel EMS/RMSが選ばれました。

SentinelはDürkopp Adler社のシステムとシームレスに統合でき、ユーザーは簡単かつ自動的にライセンスを購入できます。同社では数か月以内に、クライアント向けにQONDACの販売を開始することができました。Tarrach氏はこう言います。「Sentinelを見つけたら、当社は自社製ソフトウェアで確かな収益を上げることができませんでした。ライセンスと知的財産の保護を実現できたからこそ、新たな収益源を作り出し、ビジネスを成長させられるようになったのです」

Dürkopp Adler社は先見の明のあるアプローチとSentinelのライセンス管理システムにより、縫製業界を未来へと導く態勢を整えています。

Sentinelは、ソフトウェアのライセンス、配信、保護を担う、世界有数のブランドです。当社のソリューションは、新たな収益源の創出、経営効率の改善、顧客満足度の向上、貴重なビジネスインサイトの獲得を促進します。

## Dürkopp Adler社について

Dürkopp Adler社は、マテリアルハンドリングシステムや工業用ミシンなどを販売する一流メーカーです。ドイツの歴史ある都市、ビーレフェルトを拠点とする同社の起源は、2人のミシン整備工が共同で起業した1867年にまで遡ります。現在は10か国以上でグローバルに事業を展開しており、11社の子会社を傘下に収めています。

### ビジネス上のニーズ：

- 自社開発した革新的なQONDACソフトウェアを効果的に販売・保護する
- ソフトウェアをリアルタイムでモニタリングできるようにする
- 独自のソフトウェアの著作権保護を徹底させる

### 技術上のニーズ：

- ライセンスと利用規約を生成する
- 異なるタイプのライセンスを作成する
- すべてのライセンスにセキュリティチェックを適用する
- ライセンシングプロセスを自動化する

### ソリューション：

- タレスのSentinel EMS
- タレスのSentinel EMS

### 成果：

- 柔軟性の高いライセンスのライセンス、作成、セキュリティ確保を完全に自動化
- 新たな収益源を創出し、企業としての収益を増やし、業界で先導的な地位を獲得
- 業界で他社に対する競争優位性を獲得

## タレスについて

皆様がプライバシー保護を委ねている企業の多くが、タレスの製品で自社データを保護しています。データセキュリティに関して皆様が直面する「決定的に重要な局面」は増加する一方です。暗号化戦略の策定、クラウドへの移行、コンプライアンス要件の遵守など、どのような局面であっても、デジタルトランスフォーメーションのセキュリティ確保ならタレスにお任せください。

「決定的に重要な局面」には、それにふさわしいテクノロジー。